



暑いような 寒いような 涙のわからぬような 毎日で まだ  
 ストーブがないと朝は 寒く 日中は 木陰に入り 涼風を 樂(む)と  
 いったような生活です。 寒いといふながら 庭に 紫露草が咲いてい  
 るのを見て びくつきし わらびを取りに いった 次から次へ 用意して  
 くれる大地に 感じし 結実した小梅をみて 漬けたけいほと 焦り  
 …… 多少のズレは ありと 感うことなく 宇宙は 時を刻む  
 被災された方々が そこに いるというのに 国会の 醜態は 何事ぞ… 本当  
 に 一番偉そうな顔をして 実は 一番汚い心の持ち主達なのではない  
 のだろうか イセが 集団だ。 一人の 何と言ったって どういうもの  
 ものではないと 思っているから 私は 政治は 嫌いだ 切ん者  
 ではないと 自覚している。 優秀な人々を集めている訳だから 偉い  
 と 拍手してしまう程の 事や 欲しいものと 切実に 思う。  
 こうなると 山奥にいて 緑に 囲まれ 次々に 咲いていく 花たちに 出合い  
 心静かに 日々を送れるこの 事か なんと 有難いことかと 痛切に  
 感じています 貪しいけれど 心は 幸福。 私の 願っていた 事のように  
 思います。 みんな元気で 仲良く 過せること これこそが 何より。  
 6月は 蝶の羽月と いうので 可なり 確かに ショウキン ショウキン と 蝶々春餅  
 が 賑やかに 庭の木に 鳴いています。 昼近くに なり 陽も 強く なりました

幻の花 右馬允たよ王が 植えてあったところが 条件に  
 ありなかったようで 元気が なくなってきたので 春先 正介  
 は 懇ろに 植え替えを しましたところ 今その内の 3本の 咲いて 優しい  
 気持ちに させて くれて います。 名花といわれる くらいの花は 語りかけ  
 て 来る 力も やはり 強い ように 思えます。 薄ピンク色を した 大あかかな 上品な 花です。  
 次の 楽しみは 2年前 種から 芽を 出した 山 ツクヤクに 今年も 答  
 べに つきました。 つつ咲くか その日か 今から 待たれます。

暮れ 女性 勤王家 松尾多勢子 の 命日 が 目の 前の  
 6月10日。 多くの 和歌を 残し 日本史にも 名を 留めた 女傑と いうこ  
 とで 生家(竹村家)のある 飯田市 山本で 多勢子 生誕 200年を  
 記念して 顕彰事業の 準備が 進められている という 記事が 新聞に  
 あり 興味深く 読みました。 若い 人たちは 名前すら 知らない 人も 多  
 く 江戸末期 勤王 倒幕の 思想に 燃えて 52才で 上洛した 多勢子  
 の 人物像を 知り たいことと 功績を 顕彰する といふと 歌碑を 建て 多  
 くの 人々の 心に 留め置き 不承く 多勢子と 語り継ぐ 欲し 生誕 200年 顕彰  
 歌碑は 山本の 杵原 学校に 建てる とうで 竣工 除幕式には みんな  
 で 出席 したい もの と 思っています

「んたかんだ」と 反対意見を 発していた リニア 中央新幹線も  
 村民の 思いは 無視で クロートに 決定し 高森町の 天竜川に 面す  
 る 低地部は 駅を 上乗る ような 話です。 お気に入りの 美しい 自然が  
 壊される 様で 悔しい 限りですが 大きな 力には 一人一人の 声は  
 みんな 飲み込まれて しまいますね。 心穏やかで いられる 自分  
 の 世界を 持つ ことか 大事 なのではない でしょうか …… ね。